

日本地球電気磁気学会会報 (第33号)

1968年5月

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目11の16郵便番号113

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 内線 6476

振替 東京 4860 番

第43回総会並びに講演会後記

第43回日本地球電気磁気学会総会並びに講演会は、風薫る5月25日から5月28日の4日間東京大学地震研究所のお世話によって予定通り開催されました。時あたかも5月祭と日を同じくし、若い人々の歌声や踊りに囲まれた東京大学農学部3号館の大講教室を第1会場に、東大の北端に新築された東京大学地震研究所会議室を第2会場として講演会が開かれました。力武常次大会委員長をはじめ地震研究所の皆様が行届いたお世話により、5月祭には雨が降るというジンクスも吹きとばして3日目に小雨があったのみで快よい4日間を過ごして頂きました。

総計137編の一般講演のお申込みがあり、3日間は2つの会場に分れて講演を行なうこととなりました。若干の取消しがあり実際には123編の講演が行なわれ、多くの参会者が学界の最新の研究成果についての発表に耳を傾け、活発な討論が行なわれました。

3日目の5月27日午後には特別講演として

Univ. of British Columbia 渡辺喜也会員が「地磁気短周期脈動の発生機構について」

東京大学宇宙航空研究所 秋葉暲二郎氏が「現在と将来の観測ロケット」と題し夫々興味あるお話をして下さいました。渡辺会員は地磁気の短周期脈動の発生機構について観測事実とそれを説明する理論的研究の成果に基づいて磁気圏内において電磁流体波動が荷電粒子の流れとの相互作用によって増幅されるという興味ある結論に至る経過を詳しく話し頂きました。

又秋葉氏は地球外圍物理学の研究にとって欠くことの出来ないとなっている観測ロケットの性能等についてその発達と現状、更に将来の計画について詳しいお話をして頂き今後の研究の計画を立てる上に大変参考になるものと思

われます。また一時間近くも詳しいお話をして頂いたことに對し失礼でございますが紙上をもちましてお礼申し上げます。

続いて開かれた総会では新野運営委員が議長となりカ武常次大会委員長が震研の歴史等をまじえて歓迎の挨拶をされました。ついで経過報告に移り、庶務（新入会員、会員名簿発行、内規改正）、会計（長谷川基金）、会誌（発行状況）その他について担当の各運営委員から報告がありました。ついで田中館賞の授与にうっとり関戸委員長から

第44号田中館賞が 国分 征 会員（東大理地球物理）の

「極冠地域における秤穩日地磁気日変化の研究」の論文に對して授与され審査経過の報告がありました。続いて関戸委員長が挨拶に立たれ、先ず既に会報でお知らせしました加藤愛雄会員の学士院賞受賞、永田武会員の東洋レーヨン科学技術賞受賞について挨拶の言葉をのべられました。ついで最近の学界の状況特に1969~1970年に行なわれるIASY（太陽活動期国際観測年）について話されわが国の研究者が第1回極年（1887年）以来第2回極年、IGY、IQSYと4回の国際観測年を通じて世界の学界の行なって来た寄与にもまして今回のIASYへの大きな貢献が行なわれる事が期待されている事をのべられました。特に4月に開かれた日本学術会議総会においてIASYの実施に関する勧告が採択されたことは、国内的にIASAの重要性が認められたものであり、今后各研究分野において更に活潑な観測、研究が行なわれる事を希望されました。そして日本のIASA計画についての討論が6月27日~6月29日の3日間東大宇宙航空研主催のSymposiumとして行なわれるので多くの会員がこれに参加される様話されました。

次に委員長の依頼によって立たれた永田武会員はIAGAのPresidentとして国際的な学会の動向特に1969年9月1日~12日 SpainのMadridで開かれるIAGAのGeneral Scientific Assemblyの際に行なわれる色々なSymposiumについて詳細を報告して下さいました。このSymposiumにはIASPEIと共催で行なわれる地球内部、地震に関する3つのSymposiaと磁気圏内での観測と地上観測の比較、Aurora and AirglowについてのIAGAのSymposium等があり、更に各WGの会合も行なわれる予定であるとのものであります。（関連記事別掲）

次に議事に入り昭和42年度決算、昭和43年度予算（別紙）が上程され会計担当の等松運営委員の説明がありました。特に昨年度の夏に10万円の御寄付を頂き総額40万円になった長谷川基金についてその運用に万全を期すため43年度予算より別会計にする事になった点が説明されました。この決算、予算案について討論が行なわれた後出席会員の大多数の挙手賛成により承認さ

れました。ついで会員若手有志より科学研究費問題について当学会においても討論し、学会の意見を明らかにすべきではないかとの提案があり、約1時間に亘って種々討論した結果「選挙によって科学費問題に関する小委員会を設けその結果を次の総会に対して報告する」との結論に達しました。この後竹屋会員が昨秋大阪市大での学会から始められた複写印刷による予稿等について、まだその主旨を十分に理解されない会員がおられる事が残念であるとの御意見が述べられ、秋の学会には講演の内容について十分書かれている予稿集が刊行される事を強く希望されました。(今回の予稿集の中約2割は $\frac{1}{2}$ 頁以下しか利用されていません)

最後に次回総会並びに講演会を従来の順序を若干変更して東北大学理学部地球物理学教室のお世話で開催して頂く事を決定して議事を終りました。次いで、金原淳評議員が会員を代表してこの総会並びに講演会的一切のお世話をして下さった力武大会委員長を始め震研の方々に対して感謝の言葉を述べられて総会を終了しました。総会終了間際に降り始めた雨について多数会員は地震研究所会議室へ移動しながら恒例の懇親会が催されました。

以上の様な経過で4日間の大会を大変円滑に充実して終了することが出来ました事は、一重に大会をお世話して下さい力武大会委員長を始め地震研究所の皆様方の並ならぬ御尽力の賜物でありこの紙面をかりて厚くお礼申上げる次第です。

新 入 会 員

次の各氏が第42回総会以後5月28日迄に本学会に新たに入会されました。

青木 豊	東大理	十市 勉	東大理
石原 文実	〃	時枝 克安	阪大基工
小山 孝一郎	東大宇宙研	長谷川 貞雄	電波研
坂口 瑛	京大工	藤田 賢一	東大宇航研
鈴木 裕	大阪市大工	藤本 和彦	名大理
高橋 忠利	東北大理	前沢 洌	東大宇航研
田村 和士	木更津工専	向井 利典	〃
千葉 敏躬	岩手大教育	David J. Dunlop	東大理

賛助会員

以下の各社は昭和42年度の賛助会員として当学会の事業を援助して頂きました。この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

国際電子工業株式会社
測機舎株式会社
三鷹光器株式会社（中村義一）
松下通信工業株式会社
有限会社 東京プリント（金森豊）

内規改正

本学会役員の見選方法に関する内規が次の様に改正されました。この改の趣旨は従来役員の見選にあたって学会の各分野に渉って役員が見選されい事があったのを出来るだけ広い分野の方々によって役員が構成される様しようとするものです。

内規 第1条の二

（現行）評議員の見選は9名連記無記名投票とし、運営委員の見選は10名記無記名投票とする。ただし同一人を見る役員に重複して記載してもさしがえない。（以下略）

（改正后）評議員の見選は9名連記無記名投票とする。運営委員は下記の式に従い、10名連記無記名投票をおこない合計得票数の順位によつて上位名を見選する。

主として地球外部物理学を研究するもの	2名
主として地球内部物理学を研究するもの	2名
委員長附属機関に属するもの	1名
学会事務所所在機関に属するもの	1名
その他（特に専門、所属を指定せぬもの）	4名

ただし同一人を評議員と運営委員に重複して記載してもさしつかえない。

（以下略）

昭和42年度決算報告

収入の部

	(円)
前年度繰越金	1,991,805
正会員会費	470,900
準会員会費	804,175
賛助会員会費	85,000
文部省助成金	220,000
預金利子	38,502
予稿集売上	168,500
別刷代金	480,560
別刷交換会費	21,500
寄付金	100,000
計	4,380,942

支出の部

	(円)
第41回総会費	171,182
第42回総会費	180,251
第11回宇宙技術シンポジウム	3,000
会誌JGG	
19-1	300,815
19-2	310,260
19-3	393,980
19-4	513,864
会報等印費	176,350
通信郵送費	240,190
消耗品費	51,355
会合費	35,904
学会連合費	1,000
謝金	284,740
繰越金	1,718,051
計	4,380,942

昭和43年度予算案

収入の部

	(円)
前年度繰越金	1,318,051
長谷川基金繰越金	400,000
正会員会費	400,000
準会員会費	950,000
賛助会員会費	250,000
文部省助成金	220,000
預金利子	35,000
長谷川基金利子	22,000
予稿集売上	180,000
別刷代金	650,000
別刷交換会費	22,000
計	4,447,051

支出の部

	(円)
第43回総会費	180,000
第44回総会費	180,000
会誌JGG	
20-1	254,144
20-2	350,000
20-3	400,000
20-4	500,000
会報等印刷費	150,000
通信郵送費	240,000
消耗品費	70,000
会合費	30,000
学会連合費	1,000
謝金	380,000
長谷川杯事業費	20,000
繰越金	1,289,907
長谷川基金繰越金	402,000
計	4,447,051

IAGA/IASPEI シンポジウムのお知らせ

開催期日 1969年9月1日～12日

開催場処 マドリド(スペイン)

記 事

1. IAGA/IASPEI Symposium on "Multidisciplinary Studies of Unusual Regions of the Upper Mantle."

Program Committee

<u>IAGA</u>	<u>IASPEI</u>
T. Rikitake (Chairman)	J. Rothe
K. Whitham	I. P. Kosminskaya
J. Heirtzler	J. Oliver
A. Hahn	F. F. Evison
J. O. Cardus	M. A. Tuve

- 4 sessions: 8 September, Monday, a.m. and p.m.
9 September, Tuesday a.m. and p.m.

2. IAGA/IASPEI Symposium on "Geophysical Studies on the Evolution of the Earth's Deep Interior."

Program Committee

<u>IAGA</u>	<u>IASPEI</u>
T. Nagata	E. A. Lubimova (Chairman)
V. P. Orlov	K. E. Bullen
E. H. Vestine	E. C. Bullard
F. J. Lowes	V. A. Magnitsky
E. Thellier	R. J. Uffen

- 3 sessions: 10 September, Wednesday, a.m. and p.m.
11 September, Thursday, a.m.

3. IAGA/IASPEI Symposium on "Earthquake Mechanics."

Program Committee

T. Hagiwara (Chairman)
T. Rikitake (Secretary), and IAGA Representative)
Members of IASPEI Earthquake Prediction Working Group
R. Kovach (IAGA Representative)
R. Turajlic (IAGA Representative)

2 sessions: 11 September, Thursday, p.m.
12 September, Friday, a.m.

4. IAGA Symposium on "Geomagnetic Secular Change" (to include archeomagnetic secular change and reversals).

Program Committee

E. Thellier (Chairman)
R. Doell
V. P. Orlov
T. Rikitake
R. M. Casaverde

5. IAGA Symposium on "Aeronommic Ionization Processes Including Aurora and Airglow."

Program Committee

M. Micolet (Chairman)
G. M. Weill
A. Omholt
A. Dessler
F. S. Johnson

6. IAGA Symposium on "Comparison of the Magnetospheric Behavior with Ground Observations and New Indices of Geophysical Activities."

Program Committee

V. A. Troitskaya (Chairman)
J. Roederer (Co-chairman)
J. A. Jacobs

N. Ness

R. Schlich

(Because of the importance of the VLF and ELF transmissions in this problem, T. Nagata will approach URSI as a possible co-sponsor).

7. Commission I. Scientific Session on "Digitization Techniques and Spectral Analysis of Geomagnetic Observations."
8. Commission III. Scientific Session on "Measurement of Extremely Weak Magnetization of Sedimentary Rocks."
9. Commission VIII. Scientific Session on "Global Composition Structure of the Thermosphere." (This session is needed to support Item 5).
10. Commission V. Scientific Session on "Electric Fields in the Magnetosphere," convener will be J. Roederer, G. Haerendel, or R. Lüst.
11. Commission V. Scientific Session on "Models of the Earth's Radiation Environment," convener will be J. Vette.
12. Commission V. Scientific Session on "Interaction of the Moon and Planets with the Solar Wind," convener will be N. Ness.

付 記

学会会員名簿作成につき各位の御協力有難う存じました。名簿は近く各会員に郵送されます。この事業の副産物として得られたのが下図に示す会員年令分布の美態であります。御参考までに掲げました。

年 令 (1968年)

